

百人一首を覚えよう！ その10 (91～100)

91. きりぎりす 鳴くや霜夜の さむしろに 衣片敷き ひとりかも寝む
(きりぎりす なくやしもよの さむしろに ころもかたしき ひとりかもねむ)

(後京極摂政前太政大臣 (ごきょうごくせっしょうさきのだじょうだいじん)
「新古今集」)

92. わが袖は 潮干に見えぬ 沖の石の 人こそ知らね 乾く間もなし
(わがそでは しほひにみえぬ おきのいしの ひとこそしらね かわくまもなし)

(二条院讃岐 (にじょういんのさぬき) (1141頃～1217頃) 「千載集」)

93. 世の中は 常にもがもな 渚漕ぐ あまの小舟の 綱手かなしも
(よのなかは つねにもがもな なぎさこぐ あまのこぶねの つなでかなしも)

(鎌倉右大臣 (かまくらのうだいじん) (1192～1219) 「新勅撰集」)

94. み吉野の 山の秋風 小夜ふけて ふるさと寒く 衣うつなり
(みよしのの やまのあきかぜ さよふけて ふるさとさむく ころもうつなり)

(参議雅経 (さんぎまさつね) (1170～1221) 「新古今集」)

95. おほけなく うき世の民に おほふかな わがたつ袖に 墨染の袖
(おほけなく うきよのたみに おほふかな わがたつそまに すみぞめのそで)

(前大僧正慈円 (さきのだいそうじょうじえん) (1155～1225) 「千載集」)

96. 花さそふ 嵐の庭の 雪ならで ふりゆくものは わが身なりけり
(はなさそふ あらしのにわの ゆきならで うりゆくものは わがみなりけり)

(入道前太政大臣 (1171～1244) 「新勅撰集」)

97. 来ぬ人を まつほの浦の 夕なぎに 焼くや藻塩の 身もこがれつつ
(こぬひとを まつほのうらの ゆふなぎに やくやもしほの みもこがれつつ)

(権中納言定家 (ごんちゅうなごんていか) (1162～1241) 「新勅撰集」)

98. 風そよぐ ならの小川の 夕暮は みそぎぞ夏の しるしなりける
(かぜそよぐ ならのをがはの ゆふぐれは みそぎぞなつの しるしなりける)

(従二位家隆 (じゅにいいえたか) (1158～1237) 「新勅撰集」)

99. 人もをし 人もうらめし あぢきなく 世を思ふゆゑに 物思ふ身は
(ひともをし ひともうらめし あぢきなく よをおもふゆゑに ものおもふみは)

(後鳥羽院 (ごとばいん) (1180～1239) 第82代天皇 「続後撰集」)

100. ももしきや 古き軒端の しのおにも なほあまりある 昔なりけり
(ももしきや ふるきのきばの しのおにも なほあまりある むかしなりけり)

(順徳院 (じゅんとくいん) (1197～1242) 第84代天皇 「続後撰集」)